

国内経済情勢

概 観

生産は依然高水準を続けており、設備投資、個人消費も堅調で、当面経済の拡大基調は根強いものがある。もっとも、このところ業種によっては需給の引きゆるみ気配がみられ、製品在庫の増加や在庫率の上昇が目だちはじめており、また設備投資の先行指標もやや弱含みのようにかがわれる。

卸売物価は7月保合いのあと8月にはいってから反発をみせているが、市況商品については、これまで上伸してきた品目も最近騰勢一服となり落着き模様を示している。

企業の資金需要は引き続き根強い増勢を示しており、企業金融の繁忙感は中小企業にも徐々に広がってきている。

7月の国際収支は、貿易収支が大幅黒字を続けているものの、長期資本収支および貿易外収支が引き続きかなりの赤字を示し、総合では79百万ドルの黒字となった。

製品在庫の増加目だつ

鉱工業生産(季節調整済み)は、6月に前月比+4.3%と大幅増加のあと、7月(速報)は横ばいとなった。財別には、前月著増の一般資本財(重電機、運搬機械等)が減少したほか、生産財(鉄鋼、電子部品、合繊等)も微減となった反面、耐久消費財(自動車、カラーテレビ等)、建設資材

(セメント、橋りょう等)は前月に引き続き増加した。なお、生産の動きを3ヵ月移動平均値の前月比でみると、4月+1.0%、5月+2.1%、6月+1.3%と依然根強い増勢を続けている。

一方、鉱工業出荷(季節調整済み)は、6月に前月比+4.4%の増加を示したあと、7月(速報)は+0.1%となった。財別には、前月船舶の引渡し集中から著伸した輸送機械が反動減をみた一方、建設資材は天候の回復による建設工事の進捗もあって増加し、その他の財もわずかながら増加した。なお、出荷を3ヵ月移動平均値の前月比でみると、4月+0.2%、5月+0.4%、6月+1.3%となっている。

この間、7月の鉱工業製品在庫(季節調整済み、速報)は、前月+2.4%のあと+2.7%と引き続き増加し、3ヵ月移動平均値の前月比でみても、4月+1.7%、5月+2.4%、6月+2.4%とかなりの増勢を示している。財別には、輸送機械、一般資本財、建設資材等が引き続き大幅増加を示したのをはじめ、その他の財も軒並みに増加したが、とくに生産水準の高い品目で需給の引きゆるみによる在庫の増大がみられる(自動車、金属製建具、カラーテレビ、合繊等)。以上の結果、製品在庫率指数はかなり上昇した(96.9、前月94.4、船舶を除けば96.7、前月94.6)。

8月時点調査の本行「短期経済観測」によれば、大企業、中小企業とも製品需給が引きゆるんできたとみる企業がふえているほか、生産、売上げの伸びについても予測が低めに修正されるなど

若干の変化がみられるが、その程度はいずれも小幅であり、業況についても引き続き好調とする向きが多い。

設備投資の動きをみると、一般資本財出荷(季節調整済み)は、7月(速報)も前月比+0.4%(前月+7.7%)と小幅ながら増加した。一方、先行指標である機械受注額(船舶を除く民需、季節調整済み)は、6月に前月比-23.2%のあと、7月は+29.9%の大幅増加を示したが、これは前月減少した電力の急増によるところが大きく(非製造業+84.0%、製造業+4.1%)、3ヵ月移動平均値の前月比では製造業の減少から弱含みとなっている(4月-1.9%、5月-8.9%、6月-1.0%)。また、7月の建設工事受注額(民需、季節調整済み、速報)は、前月比-0.8%(5月-3.4%、6月-5.6%)と3ヵ月連続して減少した。

全国百貨店売上高は、6月に前年同月比+20.9%のあと、7月も+22.6%の高い伸びを示しており、個人消費は引き続き堅調に推移しているものとみられる。

卸売物価は7月保合いのあと反発

7月の卸売物価は、非鉄金属が海外安を映じて続落した反面、繊維品、鉄鋼が反騰し、総平均では前月比保合いとなった。8月にはいってからは、非鉄金属が続落、化学品等も小幅ながら下落したものの、繊維品が工賃高の秋冬物衣類を主に大幅上昇をみたほか、食料品、木材・同製品等も値上がりしたため、上旬は前旬比+0.2%と9旬ぶりに上昇し、中旬も+0.1%の上昇となった。

もっとも市況商品については、鉄鋼では薄板が軟調を続けているほか、8月央ごろまで上伸が続けた条鋼類も騰勢一服となり、繊維でも綿糸が続伸した反面、スフ糸、生糸、そ毛糸等は反落し

た。この間、非鉄金属では銅、鉛が続落歩調をたどり、その他の商品でも合成樹脂、木材等は弱含みとなっている。こうした市況商品の落着きには新設備の稼働本格化も響いており、このところ需給地合いの引きゆるみ気配を示すものがみられるが、当面季節的な需要期を迎えていることもあって、大きな値動きを予想する向きは少ない。

一方、消費者物価(東京)は、7月に前月比+0.4%上昇のあと、8月(速報)も雑費、被服費、住居費の値上がりを主因に+0.3%の続騰となった(季節商品を除けば前月比+0.6%、前月+0.2%)。

企業金融は引き続き繁忙

8月の金融市場では、銀行券が741億円の還収超(前年同399億円)となった一方、財政資金は税収の好調持続を主因に4,588億円の大増収(前年同3,450億円)となった。この結果、月中の資金不足は多額に上り、本行は債券の買入れおよび貸出により調整を図ったが、コール市場は通月おおむね堅調裡に推移した。

銀行券の月中平均発行残高の前年同月比増加率は、7月+19.0%のあと8月は+19.1%となり、個人消費の堅調等を映じて引き続き高水準にある。

7月の全国銀行貸出は、月中5,785億円増と前年同月を19.7%上回り、また月末残高の前年比伸び率は前月同様+16.3%となった。月中貸出増加額を業態別にみると、都市銀行(2,859億円増)、地方銀行(2,271億円増)はいずれも前年比+20%の増加となり、長期信用銀行(541億円増)は+8%の増加にとどまった。

一方、中小企業金融機関では、相互銀行(926億円増、前年比+21%)、信用金庫(1,328億円、+24%)とも高水準の貸出を続けている。

企業の資金需要は、経済活動の拡大を映じた一

般運転・設備資金の増大のほか、回収条件悪化に伴うつなぎ資金や一部業種の在庫資金も加わって根強い増勢を示しており、都市銀行などが抑制方針を続けていることもあって、企業の資金繰り繁忙感にはさらに広がっている。前記「短期経済観測」をみても、大企業では資金繰りが苦しいとする企業の割合がかなり高まってきており、決済条件も小幅ながら悪化している。また中小企業でも、大企業ほどではないものの、資金繰りが窮屈になったとする向きがふえてきている。

7月の全国銀行貸出約定平均金利は、長期ならびに輸出関係貸出の利上げ進捗などから、月中0.012%の上昇を示した(前月同0.014%)。

この間、公社債市況は6月央ごろ以降都市銀行や企業の手持ち債券売却の減少などから持直しを示したが、8月にはいってからは農林系統機関等の買控えもあって騰勢一服となっている。なお、株式市況はこのところ大勢保合い圏内で一高一低を繰り返している。

7月の国際収支は引き続き小幅の黒字

7月の国際収支は、貿易収支が375百万ドルの大幅黒字(前月同335百万ドル)となったものの、長期資本収支が延払信用供与の高水準持続、外人証券投資の流出超、海外開発関係融資などから引き続きかなりの赤字(163百万ドル、前月171百万ドル)を示したほか、貿易外収支も運輸収支を中心に赤字幅(162百万ドル、前月139百万ドル)が増加し、総合収支では79百万ドルの黒字(前月

同48百万ドル)となった。この間、外貨準備は本行輸入資金貸付実施に伴う円シフトやイタリアのIMFに対する債権の肩代わりなどから月中261百万ドルの減少となった。なお、8月の外貨準備は月中19百万ドル増加し、月末残高は3,527百万ドルとなった。

7月の季節調整後の貿易収支をみると、輸入が前月大幅増加のあと前月比+2.7%(前月+7.8%)と引き続き増勢をたどったものの、輸出も前月比+3.2%(前月+6.0%)とかなりの伸びを示したため、月中の黒字幅は339百万ドルと前月(322百万ドル)を若干上回った。

7月の輸出は前年同月比+21.5%(前月+23.0%)と高水準を続けた。品目別には前月に引き続き船舶の引渡し集中がみられたほか、鉄鋼、自動車等も高い伸びを続けており、また地域別には西欧向けが好調を持続し、米国向けも久方ぶりにかなりの増加を示したが、東南アジア、共産圏向けは低調であった。なお、先行指標である輸出信用状接受額は、7月に前年同月比+17.4%のあと、8月は+16.1%となった。

一方、7月の輸入は前年同月比+28.4%(前月+30.8%)と引き続き根強い増勢を示した。品目別には鉄鋼・非鉄原料の高い伸びが目だっている。なお、7月の輸入承認額は前年同月比+29.3%(前月+25.8%)の増加となった。

(昭和45年9月4日)